（別紙4）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470300530		
法人名	有限会社　友の里		
事業所名	グループホーム友の里		
所在地	鈴鹿市長沢町1750－1		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470300530-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　　4　年　　3　月　　11　　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設庭には年間を通し、四季折々に季節の果物の木や花の木を植えている。健康のためにも外に出て果物を収穫したり季節の花を眺めたりして、肌で季節を感じていただけるように工夫しています。また、また、テラスでお茶や食事を楽しんでいただきリフレッシュに繋げています。また近隣は畑や田んぼなどが広がり、季節ごとの虫の声、鳥の声を聞いたり、鳥が水溜まりを利用し水浴びする姿を見ている。コロナ禍で外出や面会等の制限があり、以前のような生活が出来ない状況にある昨今ですが利用者様が出来る事、役割を継続できる取り組みを日々生活を通して実践している。今年度は特にホーム内のイベントやレクリエーションに力を入れている。職員の得意分野で様々な内容を企画・実行出来ることが、利用者の楽しみ支援の充実ばかりでなく、職員のやりがいにつながっている。また、ホームでの利用者の健康管理で、タンパク質を多く取る食事の工夫や果汁100%のジュース・生の果物・スポーツドリンク・コーヒー・手作り梅ジュース等で水分摂取を支援し、生活機能訓練をペースに各利用者ごとに設定した運動に取り組み転倒予防している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設以来21年、変わらない管理者（経営者）のもとで家庭的でアットホームな支援・介護が継続し実践されているが、今は長期化している新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な制約が続いている。事業所は平屋建てで、南向きに大変広い前庭があり、果樹園・家庭菜園の場になっている。果物や野菜の収穫も楽しみであり生きがいとなっている。テラスから前方に高速道路が走って、始終車が通るのでそれを眺めているのも飽きない。テラスで皆が揃ってのランチは利用者の楽しみである。また、利用者ごとのアルバムが作られ、思い出の記録になっている。コロナ禍で遠出はできないが、前庭での散歩や収穫、事業所内では季節折々の行事が数多く行われている。体を動かす体操や廊下を歩く運動を取り入れ、リハビリにも積極的に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍、心安らぐ毎日を過ごして頂きたく、家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を、また自分らしくを理念とし、フロアーに掲示し常に意識出来るように心掛けている。	理念”ゆっくり、のんびり、地域を大切に”を基本姿勢に、一日の流れを作って過ごす支援をしている。レクリエーションで頭の体操をしたり、廊下を歩く回数を記録して、達成感を持つようにしている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を大切に繋げている。 コロナ禍で地域との交流も少なくなっている。	現在はコロナ禍で地域とのつきあい・交流は少ないが、近所から野菜などの頂き物は今も続いている。また、事業所の駐車場を小学校の集団登校の集合場所として提供しており、朝の登校時は子供たちの賑やかな声が聞こえて、利用者のなごみのひと時でもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内では毎月行っているものの、外部での研修は、コロナ禍であるため積極的な働きは行っていない。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回偶数月に定期的に開催していたが、コロナが蔓延してからは、地域、自治体、民生委員の方には、毎月友の里通信で状況等を報告している。	コロナ禍でこの1年開催はしていない。その代用として、事業所から「友の里たより」を地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族へ届けて状況報告をしている。	コロナ禍で会議の開催は難しいが、議事録として2か月に1回、事業所の現況報告(ヒヤリハットなども含めた)を書面で送、受け取った方から返信をしてもらう工夫も望まれる。また、市の担当者、全家族への報告も期待する。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様やご家族様に関する問題が生じた際には、広域連合・地域包括に報告相談している。	月に一度、広域連合の担当課へ、利用料や保険のことを聞いたり、更新手続きに出向いている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設で定めた身体拘束に関するマニュアルの設置を元に、定期的に身体拘束廃止委員会議を開催、全スタッフへの周知を行っている。	身体拘束等適正化委員会が作られ、定期的に研修も実施している。他の事例を参考に研修はされている。現在、身体拘束に至る利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入社時、具体的に説明し実行している。また毎日のミーティングやケア会議等で入居者の様子等、常に職員間で話し合いながら検討実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様が一人利用されている。後見人と常に連携し、折に触れ学ぶ場所を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明し、また入居してからも疑問に思った事など納得が出来るまで説明している。また事前に訪問し、馴染んで頂ける様にしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談窓口（意見箱）設置、また毎月1回施設より利用者様の状況をお便りでお知らせして、何時でも面会時にお話が出来るように、また要望をうかがえるように努めている。	毎月、利用料は家族が持参するシステムで、家族と面会してコミュニケーションをとるようにしている。毎月「友の里たより」とは別に、利用料の請求書に利用者ごとの写真入りでコメントを書いて様子を報告したり、DVDを使い、施設や利用者の様子を知らせている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議（月1回）を開催しており、代表者も介護者の一人として勤務、スタッフからの意見を繁栄するように努めている。	ベテラン職員が多く、コミュニケーションはよくとれている。朝夕の申し送り時などでも職員から意見が出ている。利用者のベットの位置や布団、就寝時足元が冷たいとつらいのであんかの使用、レクリエーションのことなどいろいろと提案がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算を申請し、職員個々の実績を検討の上で給与への反映を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はコロナ禍であるため自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、グループホーム協議会等の参加交流を深めるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様からの情報、担当であったケアマネからの情報を元にアセスメントを作成。また利用者本人からの思いを伺い、スタッフ間での情報を共有し、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居問い合わせの時点から、ご本人・ご家族様の意見を伺い、状態を把握したうえで支援を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ、見学の際に入居以外の可能性があれば情報提供をし、検討していただくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に応じて、できる範囲の家事全般を分担し、利用者様が主体となる場面を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出、衣替え等の協力を求めながら、関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき等との関係は維持されているが、友人知人との関係は希薄になっている。	コロナ禍の中で、馴染みの場所や人とのかかわりを継続するのは難しいが、家庭菜園での畑作業は、利用者自身が昔取った杵柄で活躍中である。また、年賀状を出す支援もしており、頻繁ではないが友人の訪問も続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者様同士が互いに気遣うことが出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様が気軽に施設への訪問が出来るように支援している。退所された利用者様、ご家族様が一か月に一度当施設へ訪問し、ご利用者様と共に過ごせる時間を作っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションを大切にし支援している。コミュニケーションが難しい利用者は表情、仕草などから思いをくみ取り、状態に合わせて支援している。	思いや意向は日頃の会話、仕草などから把握している。言えない人もどこかで言葉を発する時があり、それを見逃さず、キャッチしたことは日誌などに書いて、職員間で共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報をもとに、入居後には本人との会話や家族との会話の中から生活歴を聞き取り把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でのしぐさや言動に注意し見守りを行い、さりげなく触れたり、ケアを通して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のプランについては、モニタリング会議で評価・改善点等の意見を求めている。本人や家族の意向を次のプランに反映出来るようにしている。	月に一回、サービス担当者会議を開き、話し合いの場を持っている。計画書を作成し、3か月に1回のモニタリングを実施、4か月で見直しをしている。変化があればその都度見直しをしている。医師には訪問診療時に、家族へは月に1回の面会時に意見、要望を聞き計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様自身の様子や気付いた事は個別の記録に記載。変化や問題があれば業務日誌や申し送りノートに記載、口頭でも再確認して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望・状況を踏まえたうえで、外出や外泊の機会を依頼している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方のレクリエーション「踊り、歌、三味線、手品・大正琴」等の様々な協力を得て、日々楽しみが持てる、楽しむことが出来るように支援している。現在は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医を継続し、受診出来る支援を行っている。受診時には、ホームでの状態や変化を電話・書面で情報提供している。必要に応じて職員の同行もある。	在宅診療に特化したクリニックが協力医となって全員が主治医としている。月に一回、訪問診療があり健康面での協力を得ている。老人健診などもそこでお願いし、他科の診察についても助言指導を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関へ情報提供。退院時は、退院後に安心して生活出来るように相談。不明な事は病棟担当看護師、医師に問合せしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りは出来る体制になっている。当施設主治医が在宅医療専門医であり、終末期に看取りを希望された時は、利用者様に主治医から詳しく説明をしていただいている。	希望があれば事業所で看取りをする方針である。すでに何人かの看取りの経験をした。重度化し、その時になったら、家族と主治医に面談をして医師の指示に従って、連携のもと看取りをする。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが応急手当や救急搬送時に対応できるよう研修、訓練を行っている。主治医、家族、管理者と連携することも視野に、緊急時の対応とし把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での避難訓練を実施。防災器具等の点検、定期的な訓練をしている。	年に2回（本年度は令和3年4月と12月）に避難訓練を実施した。玄関に各自の防災頭巾があり、その中に必要な物を入れて準備をしている。避難は平屋建てなのでベランダへ集まり、すぐに広い敷地へ逃げられる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への声掛けや居室への入室。特に排泄介助に関してはプライバシーに配慮している。	一人ひとりのプライバシーは大事に考えている。利用者が居室で過ごしているときは、ドアを閉めて対応している。現役の時、学校の教師だった利用者は、自然と“せんせい”の呼称で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状況に応じて、意思決定がしやすいように声掛けをしている。表情や仕草からも思いをくみとり、表現できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体での活動やケア時には、声掛けを行っているが無理強いすることなく支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に沿って支援している。体に危険が及ぶような場合には、本人に説明し理解を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に応じて別メニューの提供もしている。誕生日には好みの食べ物を聞き、なるべく本人の思いに添えるよう提供している。季節折々に旬なものを提供し、またその季節にあった手作りのおやつを提供している。	食事は数年前から業者委託したものを活用しているが、自家菜園から収穫したものや頂き物の野菜で一品追加をすることもある。養鶏場が近くにあり、新鮮な卵を安価で買えるので、バリエーション豊かに卵料理を作って、タンパク質の摂取に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者様の水分摂取量を記録、食事量も記録している。摂取量が少ない場合、本人の好みの物をその都度工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後（1日3回）、口腔ケアの声掛け・介助を行っている。自己の歯、義歯に不具合が生じた場合家族との連携、また職員が対応して、歯科を受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄介助を基本としている。24時間の排泄を記録、個々の排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしている。また利用者様に合わせて紙オムツ、パットを使用し交換等支援している。	トイレで排泄する支援をしており、布パンツが1名、夜間のみオムツ使用が1名、リハビリパンツやパットを使用している。排泄チェック表で記録して、特に排便には注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックシートを活用することで、個々の排泄を把握し、水分・ヨーグルトを提供し便秘の予防に心掛けている。排便がない日が3～4日続いた場合は、主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の強い方は無理強いせず、タイミングをを見計らって声をかけるなどして状況に応じて入浴していただいている。	入浴は、冬は週2回、夏は週3回実施している。脱衣場にはヒーターを置いている。風呂上り、特にタオルでふき取りにくい個所は、ドライヤーを使って徹底した拭き取りに努めている。就寝前は入浴如何に関わらず、全員陰部清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んでいただけるように、利用者一人ひとりの生活習慣を把握して対応している。昼間はコミュニケーションを密に図ることや、冬は足元に電気マットで対応し安眠できる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方箋は職員が常に目を通せる場所に設置、薬の変更があればその都度職員間で情報を共有し、服薬後の様子も個別日誌、業務日誌に記載し観察をしている。またかかりつけ医に報告、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の始まりとして利用者様個々の部屋を掃除していただき、一人ひとりの生活歴や力を生かして役割をもっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、外出が困難ですが、施設庭に出て果実等の収穫を職員と一緒に行っている。施設周りで出来ることへの支援している。	前庭の果樹園と家庭菜園で折々に生りものがあり、生育具合を見たり、収穫は利用者と職員の共同作業で行っている。また、この地域は植木の産地で、至る所に花の木々が植えてあり、近場へ見ごろの花を見に出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己で財布を持っている方はいない。雑費・医療費等支払いについては家族様に説明し、金銭を預かり、金銭の出入りは出納簿に記載し毎月領収書と出納簿を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族様の了承を得て対応している。また本人に手紙を書くことなどを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な風や明るさを取り入れるようにしている。又、常に季節を感じていただけるように窓から季節の果物、花が見えるように工夫している。また何時でも歌番組、時代劇等観賞し楽しみが持てる工夫をしている。	掃除・換気は徹底してやっており、朝、利用者が居室から出たら、居室の窓ガラスを全開して空気の入れ替えをしている。陽光がリビングに広がり明るい。空気清浄機は、以前から設置している。壁に手作りの共同作品の大きな季節感のある貼り絵が飾られ、時々の写真も沢山貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の関係を把握し、楽しく気持ちよくすごしていただけるように工夫し席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に協力をしていただき、自宅で使い慣れた収納ラックを使用している。また家族や孫と一緒に移した写真などを飾っている。	自宅での使い慣れた物、テレビや衣装ケースなど持ち込まれ、写真も飾ってあり、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっている。また手すりが設置してあり、安全に生活が送れる様になっている。利用者様の動線には不要なものを置かない様に配慮している。		